

江戸時代（1603～1867年）、将軍（軍の司令官）は江戸、現在でいう東京に至るすべての街道に置かれた関所（境界の検問所）を管理していました。これらの関所は非常に重要な場所で、交易を規制し、武器の所持や謀反人、犯罪人を取り締まるため、すべての旅人を調べました。

北国街道歴史情報館では、これらのユニークな関所が当時どのように運営されていたか、展示ホールの詳しい説明や工芸品によって知ることができます。また、復元された関所を見学するツアーでは、歩き回って関川の関所の日を再現することもできます。情報館は楽しい企画も用意していて、訪問者は着物や伝統的なスタイルのかつらで装いを整えそのエリアを歩き回ることもできます。各部屋には生きていたような人形も置かれていて、江戸時代にはどんな風にもの事が繰り広げられていたか目の当りにすることができます。